



南無阿弥陀仏
人と生まれたことの意味をたずねていこう

発行日:2022(令和4)年9月28日 第27号 発行者:飛騨御坊真宗教化センター長・高山別院輪番 三島多聞
高山市鉄砲町6 TEL 0577-32-0776 web http://hidagobo.jp takayama@higashihonganji.or.jp

高山地区における「慶讃法要お待ち受け」

高山別院報恩講を慶讃法要お待ち受けの場として勤修—帰敬式法座・ハーブ演奏・「御伝鈔」拝読と異国音楽とのコラボ

来る2023年、いよいよ宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要をお迎えいたします。

法要をお迎えするに先立ち、10月16日には、各寺院1名と各団体の代表者にご出席いただき、岐阜高山教区として岐阜別院で慶讃法要お待ち受け大会を開催いたします。

また、今年11月の高山別院報恩講を高山地区においての、慶讃法要の意義をさらに確認していくお待ち受けの場としてお勤めし、来春の団体参拝へとつなげてまいります。

別院報恩講においては、教区教化の重点施策「帰敬式推進」の願いを共有していくことを願い、帰敬式法座として執行いたします。

■慶讃法要テーマ

また、この慶讃法要テーマとして「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」を掲げています。御誕生八百五十年・立教開宗八百年を慶讃するとは、親鸞聖人のご誕生の意味と立教開宗の願いを明らかにすることにより、私どもの誕生への問いと存在にかけられた願いを明らかにすることにほかなりません。立教開宗とは、私たちが人生を歩むよりどころを明らかにし、それが本願の念仏としてすでに届けられていることを知らされていくことなのでしょう。

■果遂の誓い

50年前の慶讃法要当時、曾我量深師はこう述べておられます。「聖人が亡くなってから、聖人の御恩を思うと、聖人がこの世に生まれた御恩を深く感ぜずにはおれないのであります。そういうわけで今日まで報恩講というものがつとめられてきましたが、そのなかには御生誕の御恩を報ずる意義がつつまれているのであります。それを、今日、外に取り出して、特に御誕生八百年の式典をつとめるのは、宗門として当然のことでありましょう。」

（「果遂の誓いが宗門の本 御生誕の御恩を報じて」
『真宗』1967年4月号）

「果遂の誓い」とは、『教行信証』の三願転入の文の第二十願をさす言葉であります。宗祖は自力の執心の抜きがたいことを知らされた悲歎として述べられております。私たちは、お念仏一つで救われると聞いてはおりますが、本心は「念仏となえたくらいで、本当にたすかるのだろうか」とか「あのとき出た念仏は本当の念仏だが、今は空念仏しか出ない」とか、そんなふうに思っていることはないでしょうか。

もし「家が代々浄土真宗の檀家だから、私も浄土真宗だ」というだけならば、それは不定聚です。また、いよいよ命終も迫り「もうこうなったら、最後は念仏しかありません」というな

ら、邪定聚です。消極的な念仏、コンプレックスとしての念仏。力の劣る者のために念仏が選ばれたと誤解しているという誤解です。

そうではなく従果向因としての御恩、すでにしてこの身に受けている恩を知り、それに報じていく生き方が法蔵菩薩から願われているのでありましょう。選択本願の念仏をいただき、必ず浄土に往生すると定まる正定聚の数に入るには、私自身の明確な決断が必要なのではないでしょうか。

たとい 一生を盡くしてでも
遇わなければならぬ
一人の人がいる
それは 我が身自身である

（藤代聰磨）

それを確かめていく勝縁が、宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要であります。

お待ち受け大会当日に岐阜別院に参加できない方に向けて、高山別院でもサテライト会場を開設して映像・音声の中継をいたしますので、ぜひご来場ください。

飛騨御坊真宗教化センター
駐在教導 橋 出



★センター・別院からのお知らせ★

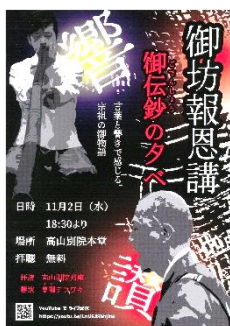
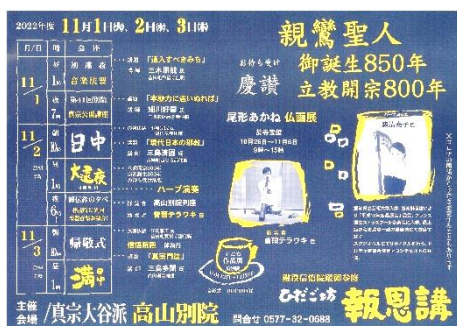
※各行事は、コロナ感染の状況により中止や変更になる場合があります。

高山別院報恩講「慶讃法要お待ち受け」として勤修

御坊報恩講は、飛騨一円の門徒が別院に集い御同朋として出逢う場です。併せてご坊センター教化の集大成として勤まります。

本年の報恩講は、高山地区における慶讃法要のお待ち受けの場として勤修します。

お待ち受けの特別企画として、大速夜の同朋唱和の後に、第1弾としてハーブ演奏を行います。午後6時半からは、第2弾として親鸞聖人のご生涯を伝える「御伝鈔」の詞に響演をする世界初の試みを行います。



なお、「帰敬式推進」は、今後100年教化として飛騨地域の真宗文化底上げをなすため帰敬式法座として実施いたします。

【ご坊子ども作品展】10月22日～11月3日の期間中本堂内展示
表彰式:10月30日(日)午前11時～

センター別院各組巡回を実施

この度、高山地区管内の所長巡回、輪番巡回を開催させて頂きました。輪番から、コロナ感染状況にあつての別院の窮状について、別院の歴史を廻りながら、教化と維持運営を踏まえお伝えさせて頂きました。

第41回真宗公開講座 共通テーマ「立教開宗とは」

今年度も真宗公開講座が開催されます。今年度は、来年の慶讃法要に向けて、「立教開宗とは」を共通テーマとして開催いたします。

第1回は別院報恩講初日、11/1(火)午後7時からです。どうぞお誘い合わせのうえご聴講ください。

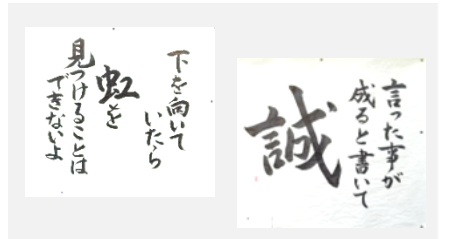
講師:細川好圓師(三条教区護念寺) 講題:本物になる 一本願に遇う



高山別院パンフレットを発行

今回別院パンフレットを新しく作成しました。別院への参詣者、観光客等、幅広い方々を対象に、別院の歴史、年間行事、ご坊ホームページの紹介、別院駐車場のご案内などを掲載しております。

中高生の法語掲示



同朋会運動—同朋としての出会いの場を願って⑥ <吉城組組門徒会研修会講義録> 四衢 亮氏

■同朋会運動と帰依三宝

先ほど「三帰依文」をご一緒に唱和いたしました、「同朋」ということを、この「帰依三宝」を通して考えてまいりたいと思います。

三帰依というのは、ちょうど今年（2021年）が1400回忌となりますが、聖徳太子が作られたとして伝わる『十七条憲法』の第二に、「篤く三宝を敬え。三宝とは仏・法・僧なり」とあります。1400年以上前から、「仏と法と僧をあなたの宝としてください」と帰依三宝を勧められ、大事に伝えられています。

帰敬式を受ける時に、「仏と法と僧を人生の宝にしていきます」と誓うのですが、誓ったからといって、すんなり仏や法や僧が宝にはならないということがあります。ならば、私は一体何を宝に今生きているのかと。むしろ、そういうことが問題となってくる、自分を確かめる「確かめ点」として仏法僧が与えられるということが、帰敬式ということの大事な意味だと思います。

それで、この仏と法と僧というのはどういうことかという、

仏＝目覚めた人。釈迦如来。

法＝仏陀が目覚めた内容（法）。

僧＝僧伽（サンガ）。仏の教えを通し、法のはたらきを共に確かめていく仲間。

仏というのは、これは仏陀ですから、目覚めた人。教え照らし出すはたらきに目覚めた人で、基本的にはお釈迦様になります。さらに私

達に先立って教えに目覚め、教えを勧めてくれる諸仏です。

法というのはダルマのことです。ダルマというのは、仏陀が目覚めた内容。私達の姿と問題を明らかにするはたらきが、南無阿弥陀仏という言葉によって示されると。だから目覚めたということには、目覚めた内容があります。その目覚めた内容が法です。

僧とは何かということ、お坊さんのことではありません。これは僧伽（さんか）といって、教えを聞く仲間のことをいいます。教えに目覚めた人が目覚めた教え（法）を説きます。説かれた法を別の人が聞きます。阿弥陀仏の本願の教えに目覚めた人が本願の教えを説きます。説かれた教えを我々が聞きます。だから、法が説かれ法が聞かれる、この聞法（もんぽう）の場が僧伽です。法によって見出される共同体です。

出家仏教、そして三帰依の出発点はお釈迦さまの時代にさかのぼりますが、在家仏教もお釈迦さまの時代に始まります。ここでは詳しく触れませんが、出家した者を比丘・比丘尼と言い、在家の入門者を優婆塞・優婆夷と言って、すでに在家仏教が始まっています。帰依三宝を勧められた聖徳太子も、出家ではなく在家者です。真宗も在家仏教であり、我々僧侶も、僧とは言いながら在家者です。

■同朋として出会う—世界に向けて発信を

同朋と同じように、仏も法も僧も、同じ大きさで同じ高さで出会っています。僧伽というの

は、具体的に同じ大きさで同じ高さで人が出会えることであり場所です。同朋会というのは会の名称でもあるんですが、それだけではなく「同朋として出会う」という意味があります。親鸞聖人と明法房がそうであったように、教えをとおして、世の中の力関係とか年齢とか、男性・女性とか関係なく同じ問題に目覚めた、そういう同じ大きさで同じ高さで出会うというのが同朋会の意味です。

「真宗同朋会運動」というのは、そういう出会いの場所を開いていこうということですが、同時に私達がこうして集まって、お寺で開いている会や、あるいは宗門や教団全体が本当に同朋として出会う場所になっているのだろうか、その名前から問われているということでもあります。

また、この同じ大きさで同じ高さで出会える場を開いていくということと、我々は同朋という形で出会えているのだろうかと言われるのと同時に、同朋として出会うことが大事だということ、世界に向けて発信していかなければいけないということもあるのです。

次号以降、本編の続編として、「帰依三宝—同朋としての出会いの場を願って」をテーマに、四衢亮師の帰敬式法座スタッフ学習会の講義録を掲載いたします。

高山1組 不遠寺住職
企画会議副座長 四衢 亮



『高山市民時報』ミニ法話『響』10月の寄稿者

- 森 香里氏（高山2組秋聲寺坊守）
- 三木 朋哉氏（益田組浄福寺住職）
- 畑 亮徳氏（吉城組願徳寺住職）
- 窪田 純氏（高山2組圓徳寺住職）
- 伊達 晴香氏（高山1組稱讃寺坊守）

web ひだご坊でも「一口法話」配信中！
※印刷したものの郵送をご希望の方は、教務支所までご一報ください。

ご挨拶(センター職員の人事異動に伴う)



8月1日付で組織部主事補を拝命し、高山教務支所を離任いたしました。2年という短い間でしたが、高山にご縁をいただきましたことは、大変うたてえことでした。京都の暑さや業務にもまだまだ慣れず、てきない毎日ですが、新任地におきましても、人との出遇いを大切にしていきたいと思っております。そし、また、
達 顕信



8月1日付で高山教務支所書記を拝命しました井野了慧(いの りょうけい)と申します。出身は茨城県で、これまで岐阜高山教務所で2年間お世話になりました。同一教区とはいえ、高山のことはわからないことばかりです。これから何卒ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。井野 了慧

飛騨御坊真宗教化センター・高山別院 2022年10月行事予定 ※コロナ感染の状況により中止や変更になる場合があります。

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区	会場
1	土			
2	日			
3	月	13:00	別 三日のご坊 法話：北條秀樹氏(了泉寺住職)	本堂
4	火	13:30	教 高山支部坊守会臨時総会	研修室
5	水	7:00 13:30 14:00	別 半日華 別 別院報恩講会議 教 解放推進協議会公開学習会 WEB 七 作品展締め切り	御坊会館 センター室
6	木	13:00 19:00	別 高山別院 護持会 組 清見組門徒会研修会⑤	センター室 了徳寺
7	金			
8	土			
9	日			
10	月			
11	火	9:00 13:00 13:00	七 書道展審査 別 大谷婦人会定例 法話：三島多聞氏(輪番) 教 東海連区災害ハンドブック研修 WEB	庫裡ホール 御坊会館 センター室
12	水			
13	木	7:00 18:00	別 前住上人ご命日 組 高山2組組会・儀式声明作法講習会	本堂 研修室
14	金			
15	土	7:00	別 半日華	
16	日	14:00	教 慶讃法要お持ち受け大会	本会場：岐阜別院・サテライト会場：御坊会館

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区	会場
17	月			
18	火			
19	水			
20	木	13:30 19:00	七 帰敬式事前学習会(帰敬式法座)	本堂
21	金			
22	土		七 作品展張り出し(～11月3日)	
23	日			
24	月	13:00	教 教区坊守会役員会	安養寺
25	火	19:00	教 教化研究所	研修室
26	水	8:30 終日	別 2組清掃作業 教 東海連区野球大会	当番：三重
27	木	13:00 9:00	別 親鸞聖人お逮夜 別 吉城組・婦人会清掃作業	本堂
28	金	13:00 15:30	別 親鸞聖人御命日 法話：小原正寛氏(専念寺副住職) 組 高山1組 組会	本堂 研修室
29	土	9:30	別 おみがき(益田組・直参・おあさじ)	本堂
30	日	7:00 11:00	別 一日華・華束盛 七 書道展表彰式	本堂
31	月	13:00	別 報恩講準備	

2022年11月 ※15日ごろまでの掲載とし、定例行事は省きます。

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院
1~3			別 報恩講				